

活き生き

TUMA

つま



防火・消火訓練をみんなで

活き生きTUMA協議会は、去る2月1日(日)に大野隣保館において、市の防災対策課及び、第2分団正副分団長をはじめ、大野部消防団・坂本部消防団の協力を得ながら、防火・消火訓練を行った。

少子高齢化が進み、消防団員の減少という課題を抱える中で、いかにして隣近所・町民の協力が大切であるかが問われるようになります。

各町での行事とも重なり、参加人数には限りがありましたが、参加された方々においては、意義ある訓練でした。

また、災害時における非常食の試食や、炊き出しの豚汁も味わい深いものでした。



消火訓練



ビデオ鑑賞



ミニ消防車「すごいね」



炊きだし「ほっとするね」



三草ふれあい喫茶を訪ねて

みなさんお元気ですか。

ある町角で「わたしたちでもお茶の飲める場所があればいいね。」
「外へ出るのがだんだんおっくうになってね、足も、だんだん弱って..」「車にも乗れないし..」そんな思いを持つ高齢者の方も多いでしょう。まず人と出会える場づくりを考えてしまいます。

そんな取り組みをしている三草ふれあい喫茶を訪ねて来ました。紹介します。

1月28日、加東市上福田(加東市立三草小学校区)地区で、元気なまちづくりをされておられる三草ふれあい広場を視察しました。国際学習塾第1駐車場の奥にある、壁面に可愛い絵を描いた建物が拠点です。活き生きTUMA同様「県民広場交流事業」で、地域の活性化と明るい元気な地域づくりを目指してスタートされたとのこと。

1. 史跡等マップづくりと住民交流
2. 都市と農村の交流
3. 防災と防犯活動
4. 世代間交流等イベントの実施
5. 三草ふれあい喫茶



5つの柱で、地域の力を結集して活動されています。

今回は、特にふれあい喫茶を中心にお話をうかがいました。第2と第4水曜日9時から11時半までの2時間半オープンです。平成21年9月スタートで、5年余りの実績があり、開設日は大変にぎわっています。ここで、よく知っている人と出会ったり、これまで話したことのない

方々とも笑いあったり、素敵な時間を共有できているとのこと。この日も満席で、一角を占領するのを申し訳なく思いました。スタッフも元気です。各町から選出された皆様で、毎回2町6人体制でこなしておられるのか。チケット販売、飲物準備、接待、後片付けと大忙し。素敵なカップ敷はメンバーの手作り、テーブル掛け・お揃いのエプロンは播州織と、なかなかのこだわり。また、壁面はギャラリーになっています。大人から子どもまでの絵画、手芸の作品が展示されています。生花のオブジェも大作です。これらは全て、三草交流広場のHPで見ることができます。また、近くの三草保育所から、かわいい子どもたちの出演もあります。1クラス毎に、散歩に来て歌や踊りを披露します。その日は、おじいちゃんやおばあちゃんの席取りが大変。幼老交流で、益々元気力アップです。



活き生きTUMAでも、喫茶開設に向けて検討中です。笑顔いっぱい元気いっぱいの津万地域をつくるため、様々な課題を検討しています。難問山積ですが、三草ふれあい喫茶の成功例に勇気づけられました。今後、地域の皆様のご協力やご支援を多々お願いすることと思います。どうか、よろしく願いいたします。

大繁盛

予定数完売

今年も生き生きTUMA
やってくれますな~
ザンドイッチにコーヒー ぶたまん
ぜんざいも
どれもみんなの胃袋おしつかみ!

走る人も応援する人も
みんないっしょ
ハイチーズ!

生き生きTUMA

今回12月14日(日)も
がんばりました!

子午線 マラソン出店

あつあつ ほっかほっか
何れのおごちそう
たくさん食べて
飲んでもらいます
がんばりませ~

もち焼いても 家焼くな
もち焼き名人とは 俺たちのこと
おいしいぜんざい まかしとき~

「おいしいね あったまるわ~」
「よう頑張つてゴールしたな」
「去年よりタイム早いわ 来年は
もっと頑張る!!」
そんな会話が聞こえてきそう!

クリーン作戦

12月7日(日)

寒さも何のその
我々のふるさと我々で美しく
ココにパーフェクト!

今年はおじいちゃんの中まで
範囲を広げて
よしよし
がきがき さきさき
さかさかさ ほういささ

枯葉集めて 雑草ひいて
みんなですれば
みるみるきれい!

寺内とんど

「とんど焼き」とは小正月の行事で、正月の松飾り・しめなわ・書き初めなどを家々から持ち寄り、一箇所に積み上げて燃やすという、日本全国に伝わるお正月の火祭り行事です。

寺内では、毎年小正月前の日曜日に村中総出で準備です。今年は、1月11日に、竹を切ったり、藁を集めたりしました。その長い竹で、公民館側のグラウンドに大きなやぐらを組みました。

小正月1月15日午後6時前、あたりは暗く、村中から老若男女が集まり、その人々のシルエットが浮かび上がります。そして、いよいよ午後6時。区長が点火。竹の爆ぜる音が響き、炎が高く燃え上がります。昼間くらい明るくなって、参加者が判別できるようになりました。「燃やした書初(かきぞ

め)の紙が高く舞い上がると習字が上手になり、勉強もできるようになるそうやで。」と、子どもを励ます人あり。「高く上る煙に乗って、正月の神様が帰られるそうや。」と火の勢いにおそろおそろ正月飾りを火に入れる人あり。「この火にあたったら、病気せんそうや。」ととんど焼きの火にあたる人あり。思い思いにとんどを楽しみました。

場所の確保の難しさや環境問題、火事の恐れなどから、とんど焼きを実施しているところが減ってきました。寺内では、1年中の身体健康・無病息災・家内安全・五穀豊穡などを祈願して、いろいろな問題を解決しつつ、恒例行事となっています。

